

22PO-pm392

災害時のための患者情報保管の検討

○齋藤 博¹, 市原 里沙子¹, 海野 由希子¹, 井上 紅音¹, 大貫 和真¹, 山田 峰穂¹, 堀口 大地², 栗原 敬昌³, 松原 弘志³, 佐藤 卓美¹ (¹日本薬大, ²和幸調剤薬局, ³株式会社サンクル)

【目的】2011年3月11日に発生した東日本大震災では甚大な被害が発生し、多くの被災者が避難生活を余儀なくされた。また、病院をはじめ多くの医療機関も大きな被害を受け、医療業務を継続できない状況に陥っただけでなく、多くの患者情報なども喪失する結果となった。近年、患者情報の電子化が進み、情報はクラウド管理が主となっている。しかしながら、クラウドによる患者情報管理を導入・維持するためには多くのコストがかかる欠点がある。そこで、本研究では埼玉県という海のない立地にある本学をホストサーバーとして、地方にある薬局の患者情報を遠隔地保存することで安価に患者情報管理を行うことができるシステムの構築を目的とした。本研究は、今年北海道胆振東部地震で被災した北海道を中心に展開している株式会社サンクルと共同で行っている。

【方法】株式会社東海コミュニケーションズの運用するスマートコネクトを用い、北海道にある薬局と埼玉にある日本薬科大学のサーバーPCを安全にかつ安価に接続する。

【結果・考察】スマートコネクトは、接続時のみ1日100円の課金が生じるリモートサービス（月額固定契約も可能）であり、その本態は遠隔操作システムであることからサーバーPCからデータを直接ダウンロードすることはできない。また、認証には2段階のパスワードが必要であり、パスワードは随時変更可能である。本研究により、本システムは簡易のかつ安全性の担保された患者情報管理システムとしては十分に有用なものであることが強く期待できる結果となった。更には初期導入費用が安価に抑えられることから小規模から中規模の薬局などの医療情報の保管にも適していると考えられる。